



第17号



「AtoZ」T・T  
アルファベットのAからZまでの  
26字が描かれている

## 人とつながりを生み出すもの・こと・ひと ～アウトサイダーアート展から～

理事長 西田 良枝



「じよっぱりの夜」  
E・N

今から、4年前「とも」が社会福祉法人になって一年目、浦安市地域自立支援協議会の事務局としてフォーラムを開催しました。私も登壇させていただき、最後に「みんな、連帯し、地域を創って行きたい…」と言ったことを覚えています。市民団体からNPO、そして社会福祉法人になり、サービスを求める側から、提供する側にもなったからそう感じるのか、社会全体のありようも変わってきている中だからなのか、日常の中で、以前のような連帯感が感じられず、分断されているような空気を感じていました。

利用者と事業者、支援する側とされる側…。あわせて、制度は高齢者、障がい者など対象によって分かれている…。それだけではなく、サービスに囲まれてしまうことによって、今まで何気なく手を貸したり借りたりしながら、地域の中でお互いに支えあっていた部分が減ってしまったり、同じ問題を抱える仲間同士で集まって困ったことを解決しようとしたり、時にはわいわい大変だけれどもみんな協力してイベントをやってみたり…などなど。そんなことも、少なくなってしまったなあ…とっていました。

サービスが充実することは必要なことですが、それと引き換えに地域とのつながり、ともに生きている実感を失っているのだとしたら、それを失いたくない、取り戻したいなとっていました。

「とも」が目指す地域の中で障がいがある人もない人も共に人権が守られ楽しく生きる街が実現するには、そこに「共に存在する」ことからはじまると私たちは思っています。だから、「とも」はマンツーマンの支援を大切にして障がい者だけが集まる集団処遇を行ってきませんでした。

そんな中、2008年、障がい当事者の拠点として、今川センターと駅前センターほっぷの二つの拠点をもち、ほっぷはさらに二つの顔、昼はリサイクル、夜は立ち飲みどころを行う「地域活動支援センターとも」をスタートしました。

孤立している障がいがある人も多い、安心していろいろなことにチャレンジするための力を蓄えられる場所も必要、障がいがある人が働いたり、ものを創り出して行く姿も街の中にあることを知ってほしい…。

「地域活動支援センターとも」がもつ機能と仕掛けはとてたくさんあり、立ち飲みを行うことでは、障がい者が酒?!と少しばかりの議論にもなったようですが、新浦安の駅前という立地もあり、ほっぷは年間、延べ約3万5千人もの人が足を運んでくださることになりました。そして、今年のはじめ、ほっぷに飾られた絵が、新浦安駅のショッピングセンターであるアトレ新浦安の副店長小野さんの目にとまり、多くの買い物客で賑わうアトレ新浦安の中で、アート展を開催するというご提案をいただきました。5月24日～30日の一週間。どれくらい多くの方にアート展を見ていただいたのか正確な数はつかめませんが、アンケートの回収は170枚。多くの反応をいただきました。

私が会場に立ち寄ったときも、多くの方が足を止め、絵に見入ってくださる姿がありました。障がい者の描いた絵を見に来た、ではなく、素敵な絵があるなあと思って見ていたら、障がいがある人が描いたも

のだった、とおっしゃってくださる方がとても多く、「落ち込んでたけど、元気が出た」「感動した」「一緒に何かやりたい」など、まったく障がいとのかかわりなどない人たちの声や、作品を書いた二人の幼稚園、小中学校時代の友達や以前にお世話になった二人を知る地域の方々が「久しぶりに会えてうれしかった」などこのアート展を通して、交流が復活できたのは、連帯や地域の中で暮らす人とのつながりのようなものが、取り戻せたような気持ちになりました。

私のつたない文章ではうまく伝わらないので、皆さまからいただいたアンケートの抜粋を織り込みました。感想を寄せてくださった方々にお礼申し上げます。そして、このような多くの人の感動の場面をつくってくださった小野副店長の文章を感謝の気持ちをこめて掲載させていただきます。

最後になりましたが、小野副店長をはじめご協力いただきましたアトレ新浦安のご関係者の皆さまに心よりお礼申し上げます。



たくさんの方々にご覧いただきました。

## 親愛なる Eさんと T君へ～感謝をこめて～

展覧会にご協力いただいたアトレ副店長さまよりメッセージをいただきました

ある朝、新浦安駅前で清掃活動に勤しむ、背高ノッポで細長い腕をした T君と会いました。お世辞にも器用とは思えない手つきで、でも、一所懸命、真剣な眼差しでゴミを塵取の中へ運び入れて、大いに満足・得意気に微笑む顔がとても印象的で深く感動したことを覚えています。以来、その笑顔が私には、とても忘れえぬことができない大切な宝物となりました。そして、その宝物に毎日でも会いたくて、時間を見つけては駅前へ出掛けています。今では、T君に微笑みを投げかけて戴くようになり、大変に幸せを感じさせて戴き、改めて深く感謝を申し上げます。

T君とお知り合いになり、彼を支援されているほっぷさんのことがとても気になり始めました。駅の目の前にあることは存じ上げておりましたが、容易に入ることが出来ずにいたところ、T君の後押しで容赦戴き訪れることが出来ました。そして、その時、今までに見たことがない立派な車椅子に横たわる、Eさんに初めてお会いしました。

その場では、Eさんのか細い体に圧倒され、言葉をお掛けすることが出来ませんでした。後に、そんな自分が全く持つて恥ずかしくなり、次にお逢いした時こそは、必ず明るい挨拶とお声掛けをしようと心に誓いました。

その後、何度か Eさんとお会いしている中、Eさんと握手をする機会に恵まれました。車椅子の中、竹串のように細く真っ白なその指で、私の人差し指を確りと握り締め、何度も腕を振っていました。それは、遠い日、母親に連れられ幼い私の指を母親が深い愛情で、決して離れないようにと、確りと握り締めてくれた時のことを思い出し、思わず目頭が熱くなりました。本当に Eさんありがとうございました。忘れかけていた人に対する愛情の大切さを思い起こさせていただき、深く感謝を申し上げます。

更に、衝撃を受け深く感動を抱いたことは、そんな友達のお二方が描いた絵画でした。何人にも束縛されることもない自由闊達な筆遣いと色合いの中に強い意志と生命力が宿っていることを感じ圧倒されました。全く感服です。

そこで、何とかお二人の芸術活動を色々な方にも紹介したいとの思いに至り、アトレのガーデンテラスであれば可能と判断し、職場の上司・仲間の快諾を得て第1回の展示会にに漕ぎ着けることが出来ました。ご覧を戴いた皆様にも感動のお裾分けが出来たならば、幸いに存じ上げております。また、突然のご無理を申し上げ、準備時間もない中、熱心にご協力を戴きましたほっぷの皆様に深く感謝を申し上げます。

最後に、この様な機会を与えて戴きました全ての方々に感謝を申し上げますと共に、次回の展示会、更にはパネルディスカッション等の開催に向け、諸氏のご協力を賜りたくお願い申し上げ、お二人への感謝といたします。

【新浦安アトレ副店長】

## ともの今日

### ◆居宅介護支援事業所より◆

介護保険が適応になった利用者さんを対象に、介護保険制度を利用して、良好な地域生活が送れるように支援を行っています。利用者さんの希望やニーズをしっかりと把握して、その方に合わせて、介護保険サービスや障がい福祉サービス、医療保険制度、浦安市独自の制度など、あらゆる制度サービスとインフォーマルなサービスを活用しながら、ケアマネジメントを行います。地域社会において、利用者さんが、より快適な在宅生活が送れるように、居宅サービス計画書（ケアプラン）を作成し、地域生活の継続を支援します。

介護保険の保険給付の上限を超えたサービスを「上乗せサービス」といいます。最近は特に、早朝・深夜の支援サービスを必要とする利用者さんが増えています。なかには、医療保険サービスを併用しながら、障がい福祉制度の上乗せサービスを利用している方もいらっしゃいます。これからも、このような複雑なケアプランが増えてくると思いますが、利用者さんしっかりと向き合い、その方に合わせたケアマネジメントを行っていきます。

【ケアマネージャー 伊藤】

## ◆福祉用具貸与事業所より◆

利用者さんが在宅生活を快適に暮していく為に、福祉用具の選定や医療機器の販売を行っています。最近、事業活動を通じて痛感することは、高齢者が高齢者を介護するという、いわゆる、老老介護が確実に増えているということです。その為、退院後や退所後、在宅生活に戻るときは、室内と室外共に、車椅子や歩行器が必要不可欠になります。今後も、この傾向は、ますます増加し、室内用と外出用の車椅子や歩行器の需要が上がり、レンタルが増えていくと思われます。

【ケアマネージャー 伊藤】

## ◆パーソナルケアセンター利用者アンケート集計報告◆

「社会福祉法人パーソナル・アシスタンスとも生活支援事業所」は今年 10 年目を迎えました。これを機により一層のサービス向上に反映させるため、利用者アンケートを実施しました。

アンケートは「契約等事務的なことについて」、「スタッフについて」、「ケアについて」、そして「自由意見」を 5 段階評価と記述で回答していただきました。

自由意見では、サービスやスタッフに対する希望や要望がたくさん書かれておりました。

中でもタバコを吸うスタッフの臭いについて体調によっては気分が悪くなるというご意見がありました。サービス前は吸わない、歯磨きをする、臭い消しをする、また、タバコだけでなく匂いの強い食べ物や香水なども合わせてスタッフ同士で気にするようにし、利用者の方に気持ちよくサービスを受けていただけるよう改善したいと思います。

その他結果は、毎月行われるスタッフミーティングで話し合い、今後の事業運営に活かしていきたいと思えます。ここでは抜粋をご紹介します。

■発送日：平成 22 年 4 月 30 日 ■締切り：平成 22 年 5 月 14 日 ■配布数：115

■配布方法：郵送 107、手渡し 8 ■回収：27 ■回収方法：郵送、手渡し ■回収率：23.5%

【 ご利用されている方について 】

■年齢

～9 歳	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	不明
11.1%	22.2%	11.1%	14.8%	3.7%	3.7%	3.7%	11.1%	14.8%	3.7%

■性別 男性 14 女性 12 未記入 1

■利用しているサービス（複数回答）（単位：人）

訪問介護身体介護	3	訪問介護生活援助	1	移動支援	13
障害福祉身体介護	12	障害福祉家事援助	5	障害福祉通院介助	3
障害福祉行動援助	3	障害福祉重度訪問	0	夜間安心訪問ヘルプ定期	3
夜間安心訪問ヘルプ随時	4	通院ヘルプ	3	パーソナル	0

【 契約・予約について 】

	基準を上回る	できている	ほぼできている	あまりできていない	できていない	質問に該当しない	未回答
契約について十分説明されたか	18.5%	59.3%	18.5%	0%	3.7%	0%	0%
予約は希望通り取れているか	3.7%	29.6%	22.2%	26.0%	11.1%	0%	7.4%

【 スタッフについて 】

支援計画通りにケアができているか	26.0%	48.1%	14.8%	0%	0%	0%	11.1%
ケア開始時にその日の利用者の様子を確認しているか	18.5%	55.6%	11.1%	0%	3.7%	0%	11.1%
貴重品を預かる時内容を確認しているか	18.5%	29.7%	11.1%	3.7%	0%	18.5%	18.5%
ケア終了時、ケア中の様子を詳しく伝えているか	18.5%	33.4%	14.8%	0%	7.4%	7.4%	18.5%
実績記録票を確認していただき印鑑をいただいているか	22.2%	55.6%	3.7%	0%	0%	3.7%	14.8%
活動費について活動明細で説明し印鑑をいただいているか	11.1%	25.9%	3.7%	0%	0%	25.9%	33.4%

【 ケアについて 】

ケアについて満足しているか	18.5%	48.1%	26.0%	3.7%	0%	0%	3.7%
---------------	-------	-------	-------	------	----	----	------

【パーソナルケアセンター 黒田】



## 「障害者の働くレストラン」

スウェーデンの視察の昼食で、レストラン“Glasade Gången（ガラスの通路）“に行きました。そこは、障害者の日中活動の一環として運営されているレストランでした。オフィスビル街の一角に、長いスロープのついたレストランの入り口があります。そこを入ると、中は広々としたおしゃれなレストランになっていて、ランチを食べに来たオフィス街の人たちで賑わっていました。レストランの入り口には、写真が沢山飾られていました。近づいて見ると、そこで働いている障害のある人たちが、誇らしそうな表情で写っていました。

レストランはセルフサービスで、お客が自分で気に入った料理やパンをトレイにのせて、最後にメインディッシュを選ぶと、お店の人がお皿に盛りつけて出してくれます。そのまま進むとレジがあり、トレイにのっている料理分のお金を清算します。接客しているのは、ほとんどが障害のあるスタッフで、これらの仕事が自分たちでできるような工夫が凝らされていました。お客さんに出すトレイにお皿をのせる時に、どこにどの大きさのお皿を置いたらいいか、マーキングされているトレイ。レジでは、モニターの画面に料理の写真がアイコンになって並んでいて、それをタッチするだけで、お客がトレイにのせた料理の代金が計算できるようになっていました。次の画面ではお金の写真がアイコンになっていて、お客が支払ったお金と同じ写真のアイコンにタッチするだけで支払総額が計算され、代金と差引かれてお釣りが表示される仕組みになっていました。これなら、文字が読めない人や計算が苦手な人でもレジが打てます。少々時間はかかるようですが、レストランに来る人は、そのことを承知して来ているということでした。

料理を作っている厨房も見せてもらいました。広々とした厨房では、様々な作業が行われていました。鍋でシチューのようなものを煮込むためヘラでかき回している人、クッキーの生地を丸めている人たち、ジャガイモの皮むきをしている人たちなどなど。いろいろな仕事を手分けして、みんな楽しそうに行っていました。



レストランの看板



レストランのある通り



レストランの入口



店の入口にはスタッフの  
写真が飾られていました



お皿を置く場所と形が  
マーキングしてあるトレイ



クッキー作り



レジの画面 料金の写真を  
タッチすると会計ができる



じゃがいもの皮むき

広々とした店内



レストランの店員



広い厨房スペース

通訳のJ・Sさんは、このようなレストランを「逆統合」と言っていました。障害のある人が一般社会の中で生活することを「統合」と呼ぶなら、障害のある人の日中活動の場であるレストランに、障害のない人たちが来て食事をするという形は、逆方向の「統合」だ、ということなのでしょう。

「とも」でも、新浦安駅前に地域活動支援センター「ほっぷ」をオープンしています。障害のある人と一緒に運営しているお店には、昼間はリサイクルショップで主婦を中心にした人たちが、夜は立ち飲み屋でサラリーマンを中心にした人たちが大勢来店しています。このような日中活動の場がお店になっているという形態は、日本でも徐々に増えてきました。日本における「逆統合」と言えるのかもしれませんが。



鍋で料理を作る  
当事者のスタッフ



厨房で働く  
当事者スタッフ

## 「とも」の顧問弁護士 ～ 大石先生をご紹介します ～

このたび、「とも」の顧問弁護士の仕事をするようになりました大石と申します。よろしくお願いします。営利法人(会社)の顧問は10社くらい受任していますが、社会福祉法人の顧問は初めてです。

私は15年くらい前から、知的障害・発達障害のある人に関する事件・事故などにかかわるようになりました。そのような仕事の性質上、常に障害のある本人側の立場に立って、学校、企業、施設、行政、司法、そして時には親とも、対峙してきました。ですから、障害のある人を顧客として福祉サービスを提供する社会福祉法人の顧問を受ける、ということについては、少なからず抵抗がありました。主義に反するのではないかと。が、「とも」に関わっている人たちの「ムード」が気に入ったので、受けることにしました。知的障害・発達障害のある人には何らかの支援が必要なことは確かです。「とも」は、その支援を地域で広く多く作ることに全力を尽くしている「ムード」を持った人の集まりだと思います。その応援をする役割を果たせるなら、それは障害のある本人側の立場から逸脱しないのではないか、と感じました。ムードは大事だと思います。お役に立てるよう、がんばります。

## 浦安市地域自立支援協議会 活動報告

4月30日、松崎市長も参加され、22年度の地域自立支援協議会の方向性を検討する「全体会」が開催されました。啓発・広報、就労支援、特別支援教育、事業所・制度プロジェクトのリーダー及び事務局から22年度の実施内容について発表され、全体会の承認を受けました。全体会では浦安市障がい児・者総合相談センターが委託を受けている相談支援事業の活動報告を行い、委員の皆さんから評価を受けました。

その後、着々と幹事会、各プロジェクト会が始動しています。幹事会は、昨年度同様に毎月1回開催し活発な議論を展開しています。今年度は5月27日、6月30日、7月27日に開催されました。現在、幹事会で取り組んでいることはケアホームやグループホームなどの居住資源の立ち上げです。浦安で必要なケアホームやグループホームのモデルパターンを作成し運営シュミレーションを立て、実際に居住資源を増やすためにどのような手段を講じる必要があるのか細かく検証しています。

啓発・広報プロジェクトでは「サポートブック」作成に着手すべく、6月2日に第1回のプロジェクト会議が開催されました。リーダーよりサポートブックの位置づけとして、「一緒に暮らす街づくり、また、そこにある課題を知り市民に伝えていくきっかけとなれば」とプロジェクトメンバーに説明がありました。今後、2ヶ月に1度の頻度で会議を行う予定です。

5月13日、今年度最初の就労支援プロジェクト会が開催されました。千鳥地区の(仮称)障がい者等就労支援施設の見学を行い、その後、浦安市障がい者就労支援センターの21年度活動報告も行われました。22年度も引き続き、障がいの重い人たちの就労支援などについて検討していくことがリーダーより発表されました。

7月6日には特別支援教育プロジェクト、7月13日には事業所・制度プロジェクトの第1回が開催されました。特別支援教育プロジェクトでは、個別の指導計画や発達支援に関する支援機関の役割分担について検討します。事業所・制度プロジェクトでは、浦安版福祉の就職フェア開催に向けて具体的に準備に入っていきます。

22年度、着実に進化している地域自立支援協議会は「共生社会実現の要」として動き出しています。

【浦安市障がい児・者総合相談センター 矢富】

〈編集後記〉  
今年の夏は暑そうですね。熱中症要注意です。【Y】